



mIRaI 通信



～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

4年に一度思うこと・・・



4年に一度のスポーツの祭典であるオリンピックが、地球の反対側、ブラジルはリオで行われ、無事閉会しました。

始まる前はいろいろと不安要素も言われていましたが、終わってみれば日本選手の大活躍も相まって、素晴らしい大会であったとみんなが思っているのではないのでしょうか。

私同様、多くの方が手に汗を握り応援、つい夜更かしを…となったことでしょう。



史上初とか何十年ぶりとか、大逆転とか、本当にドラマチックな展開が多くあり興奮しました。男子7人制ラグビーや女子バスケットなどの、チームスポーツの躍進もすごかったですね。

4連覇という気が遠くなるような期間、人はここまで努力を続けられるのだと体現して見せてくれた伊調選手、片や、霊長類最強とまで言われた吉田選手の敗退は（といっても銀メダルですけどね）、人が人であるということの証明であったようにも思います。



計り知れないプレッシャーの中、着地を見事に決める体操選手や、「もうダメか」と思われる中での、卓球やパドミントン選手、レスリング選手の大逆転は、「人はここまで強くなれる」という自信と感動を我々に与えてくれました。



フェルプスやボルトの、信じがたい超人的な記録。そしてその記録の裏に垣間見える、想像を絶する努力…それが見えるからこそ、これほどまでの感動を与えてくれるのでしょうか。

日本選手のみでなく、全ての選手のバックボーンに、それぞれのドラマが見えるからこそ感動なのだと思います。難民チームの参加は、その最たるものでしょうか。



もちろん、「勝つ」ためにその場にいるわけですが、しかし、時に勝敗を越えた大切なものも我々に示してくれます。

女子5000メートルでの助け合い、体操男子個人総合の後の記者会見でのウクライナ選手の発言、男子競歩のカナダ選手の試合後の言動などなど、競技を極めた者だからこそその言動は、何が最も大切なのかを教えてくださいました。

なぜか公開の場でプロポーズが流行ったり（苦笑）、国歌を間違える、バスが選手を違う会場に輸送した、プールに藻が生えて一夜で色が緑色にとか、さまざまなハプニングや失敗もあったようですが、ある記事によれば「すべてラテンのノリで乗り切った」のだとか。これもまた、我々に大切なことを教えてくれているように思いました。細かいことにくよくよせず、ノリや笑顔でやっていくことも大切なのでしょね。

個人的に最も印象に残ったのは、

柔道で金メダルを獲った瞬間の大野選手の態度でした。試合後の礼が終わるまで表情一つ変えず、畳を降りた瞬間に表情が崩れ、嬉しそうな照れくさそうな微笑みになったのが印象的でした。「対戦者への礼儀」…日本古来の武道が大切にしてきたものです。国際化社会の中での「ジュードー」であるので、古くさいことにこだわる気はサラサラないのですが、それでも大野選手が、日本の武道の精神、「武士道」の心構えなどを広く全世界に見せてくれたことが、とてつもなく嬉しかった秋山でした。彼には個人的に「リオ侍」の称号を贈ります、おめでとう！（笑）。



そして最も興奮したのが、

誰が何と言おうが（誰も何も言ってないって：苦笑）、男子4×100メートルリレーの銀メダルでしょう！これはスゴすぎ！！もうどう表現していいのかわからない…。

身体的な差はいかんともしがたく、一人一人の総力には差があります。しかし、個人競技でなくリレーという、言わば団体競技。そこに活路を見だし、徹底的な反復練習で身につけたバトンパス技術や、チームを仲間として思う精神的なつながりを武器に、互角以上に戦い、世界中をアッと叫びさせた銀メダル。こんな興奮することはありますまい。さすがは「駅伝発祥の国」ですね！

まさに「日本の力」を見せつけ、「これからの日本の生きる道」まで示してくれたように思います。「協調性」「信じる心」「継続した努力」…本当に多くの大切なことを教えてくれました。

過去最高のメダル数を記録したリオオリンピックでしたが、メダルだけに価値があるのではないことはみんな承知しています。

本当にどの選手もすばらしい活躍で、子どもたちにとっての「高い山」になってくれたのだと思います。「高い山」があるからそこに登りたくなるものです。目指す山頂は高々とそびえています。

スポーツに限らず、周りを見渡してみれば、登る価値のある山々はあちらこちらにありませんか？

高い山を目指して努力を続けて行くこと…その大切さを教えてくれたのが、オリンピックの最大の成果であったと思います。



かつて、ある登山家が、「あなたはなぜ山に登るのですか？」と尋ねられて、こう答えたそうです。

「それはそこに「山」があるからだ」と。



私たちの周りにも山は多くあります。それらは全て、先人たちが努力し積み上げ、また次の者が積み上げ、を繰り返し高くなった山です。

多くのつながりの先に山があることを忘れず、自分の目指すべき山を早く見つけ、こつこつと山頂をめざす歩みを続けていってください。



長々と書いてしまいました。

実は4年ごとに、通信にはオリンピックネタを載せてきましたが、ここまで熱い思いで書いた記憶はないです。それだけ熱い熱い大会であったということでしょう。

オリンピックを創り上げてくれた、全ての選手、関係者に心からの感謝を贈ります。



さあ次は東京だ！！日本開催だけに、通信で100枚くらい書くのではないのでしょうか？恐ろしい…人はこれを「獲らぬ狸の皮算用」と呼ぶ（苦笑）。

